

平成18年度 病虫害発生予察情報

発生予報第3号(6月)

平成18年6月2日
島根県

予報の概要

区分	農作物名	病虫害名	予想発生量		
普通作物	イネ	葉いもち	平年並～やや多い		
		紋枯病	平年並～やや多い		
		縞葉枯病	やや少ない		
		萎縮病	やや少ない		
		黄化萎縮病	平年並～やや少ない		
		ヒメトビウンカ	少ない		
		ニカメイチュウ	少ない		
		ツマグロヨコバイ	平年並		
		イネドロオイムシ	少ない		
		イネミズゾウムシ	やや少ない		
		果樹	ナシ	黒斑病	平年並～やや少ない
				黒星病	やや多い
				シンクイムシ類	やや多い
ハマキムシ類	やや少ない				
ハダニ類	少ない				
アブラムシ類	少ない				
カキ	円星落葉病			平年並～やや多い	
	カキミガ	平年並			
	果樹全般	カメムシ類	平年並		

中国地方1か月予報(6月3日～7月2日・広島地方气象台6月2日発表)
向こう1か月の気温は平年並み、降水量は平年並みが多く、日照時間は平年並みか少ない見込みです。

<特に注意を要する事項>

5月上旬後半以降、中国地方では日照の少ない状態が続いています。今後も予報期間の前半を中心に平年に比べ曇りや雨の日が多いことが予想されます。

A. 普通作物

1) イネ

(1) 葉いもち

予報内容

発生地方 県下全域

発生時期 平年並

発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

現在、本田での発生は認めていない。

常習発生地では育苗箱施薬の実施率が高い。

6月の気象は気温が平年並み、降水量は平年並みか多いと予想されており、本病の発生にやや助長的である。

(2) 紋枯病

予報内容

発生地方 県下全域

発生時期 平年並

発生量 平年並～やや多い

予報の根拠

前年の発生量から、越冬菌量はやや多いと考えられる。

常習発生地では育苗箱施薬が普及しつつある。
6月の気象は本病の発生を抑制する要因とはならない。

(3) 縮葉枯病

予報内容

発生地方 常習発生地

発生量 やや少ない

予報の根拠

媒介虫のヒメトビウンカの発生量は少ないと予想される。
近年、本病の発生はやや少なく、保毒虫率はやや低いと考えられる。

(4) 萎縮病

予報内容

発生地方 常習発生地

発生量 やや少ない

予報の根拠

媒介虫のツマグロヨコバイの発生量は平年並みと予想される。
近年、本病の発生は極めて少なく、保毒虫率は低いと考えられる。

(5) 黄化萎縮病

予報内容

発生地方 常習発生地

発生量 平年並～やや少ない

予報の根拠

前年の発生量から、菌密度は低いと考えられる。
6月の気象は本病の発生にやや助長的である。

(6) ヒメトビウンカ

予報内容

発生地方 県下全域

発生量 少ない

予報の根拠

5月下旬の巡回調査では、捕獲数は0頭（平年0.04頭/50株）、発生圃場率は0%（平年3.0%）で発生量は平年に比べて少ない。
6月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(7) ニカメイチュウ（第1世代）

予報内容

発生地方 県下全域

発生時期 平年並

発生量 少ない

予報の根拠

予察灯、フェロモントラップにおける越冬世代成虫の誘殺量は平年に比べて少ない。
6月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(8) ツマグロヨコバイ

予報内容

発生地方 県下全域

発生量 平年並

予報の根拠

予察灯における誘殺量は平年並みである。
5月下旬の巡回調査では、捕獲数は0.07頭（平年0.09頭/50株）、発生圃場率は6.7%（平年6.0%）で発生量は平年並みである。
6月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(9) イネドロオイムシ

予報内容

発生地方 県下全域

発生量 少ない

予報の根拠

5月下旬の巡回調査では、被害圃場率は0%（平年5.6%）で発生量は平年に比べて少ない。
6月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(10) イネミズゾウムシ

予報内容

発生地方 県下全域(特に中山間部)

発生時期 平年並

発生量 やや少ない(幼虫による被害)

予報の根拠

予察灯における越冬世代成虫の誘殺量はほぼ平年並みである。

5月下旬の巡回調査では、発生圃場率は50%(平年79%)、被害株率は33.9%(平年39.1%)、発生圃場の被害度は12.9(平年18.2)で平年に比べてやや低い。

被害度 =
$$\frac{(\text{被害葉率}91\% \text{以上} \times 4) + (90 \sim 61\% \times 3) + (60 \sim 31\% \times 2) + (30 \sim 1\% \times 1)}{\text{調査株数} \times 4}$$

調査株数 × 4

6月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

B. 果樹

1) ナシ

(1) 黒斑病

予報内容

発生地方 ナシ(二十世紀)栽培地帯

発生量 平年並 ~ やや少ない

予報の根拠

5月29日の巡回調査では、発病葉率2.2%(平年の発病葉率4.0%)であり、発生量はやや少ない。

6月の気象は気温が平年並み、降水量は平年並みか多いと予想されており、本病の発生にやや助長的である。

(2) 黒星病

予報内容

発生地方 県下全域

発生量 やや多い

予報の根拠

多くの圃場で発生がみられ、現在のところ発生はやや多い。

6月の気象は本病の発生を抑制する要因とはならない。

(3) シンクイムシ類

予報内容

発生地方 県下全域

発生時期 やや遅い

発生量 やや多い

予報の根拠

フェロモントラップ(安来市、出雲市)でのナシヒメシンクイ雄成虫の誘殺盛期は平年に比べてやや遅く、誘殺数はやや多い。

6月の気象は本種の発生を抑制する要因とはならない。

(4) ハマキムシ類

予報内容

発生地方 県下全域

発生時期 やや遅い

発生量 やや少ない

予報の根拠

県予察圃場(出雲市)のフェロモントラップにおけるハマキムシ類雄成虫の誘殺盛期はやや遅く、誘殺数はやや少ない。

6月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(5) ハダニ類

予報内容

発生地方 県下全域

発生量 少ない

予報の根拠

5月下旬の発生量は寄生葉率0.5%(平年値3.0%)、寄生虫数0.7頭(平年値6.0頭)と平年に比べて少ない。

6月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

(6) アブラムシ類

予報内容

発生地方 県下全域

発生量 少ない

予報の根拠

5月下旬の寄生新梢率3.7% (平年値11.3%)、寄生程度1.1 (平年値4.5) と平年に比べて少ない。

黄色水盤への有翅虫飛来数は平年に比べてやや少ない。

6月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

2) カキ

(1) 円星落葉病

予報内容

発生地方 県下全域

発生量 (感染量) 平年並 ~ やや多い

予報の根拠

前年の発生は平年並みで、伝染源量も平年並みと考えられる。

6月の気象は気温が平年並み、降水量は平年並みが多いと予想されており、本病の発生にやや助長的である。

(2) カキミガ (第 1 世代)

予報内容

発生地方 県下全域

発生時期 平年並

発生量 平年並

予報の根拠

前年の第 2 世代幼虫による被害は平年並みであり、越冬量は平年並みと考えられる。

6月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

4) 果樹全般

(1) カメムシ類

予報内容

発生地方 県下全域 (特にナシ無袋、カキ栽培地帯)

発生量 平年並

予報の根拠

5月4半旬から6半旬までの予察灯でのチャバネアオカメムシ、クサギカメムシの総誘殺数は40頭 (平年値43.5頭) で平年並みである。

6月の気象は本種の発生を特に助長する要因とはならない。

島根県病害虫防除所

(島根県農業技術センター 資源環境研究部 病虫グループ)

〒693-0035 出雲市芦渡町2440

TEL 0 8 5 3 - 2 2 - 6 7 7 2

FAX 0 8 5 3 - 2 4 - 3 3 4 2

ホームページ <http://www.jppn.ne.jp/shimane/>